

【日 時】 令和5年8月8日（火） 15時～17時

【場 所】 高山市役所 4階 特別会議室

【出席者】（委 員） 座 長 河渡 正暁
副座長 井口 智人
大村 貴之
丸山 永二
岩塚 久案子
大塚 則幸
坂上 博幸（代理：加藤 直樹）
黒田 久美子
荒川 幸雄
池田 新

（有識者） 中部大学 教授 服部 敦

（市） 総合政策部長、総合政策課長、生涯学習課長、福祉課長、子育て支援課長、
都市計画課長、総合政策係長、総合政策係員

【次第】

- 1 開 会
- 2 自己紹介
- 3 座長及び副座長の選出
- 4 協議事項
 - (1) 全体説明
 - ア これまでの取組み（～令和4年度）
 - イ 今後の取組み（令和5年度～）
 - (2) 意見交換
- 5 その他
- 6 閉 会

【議事要旨】

1 開 会

総合政策部長	（あいさつ）
--------	--------

2 自己紹介

委員、有識者、市	（自己紹介）
----------	--------

3 座長及び副座長の選出

委員	(立候補なし)
総合政策課	総合政策課案として、座長に河渡委員、副座長に井口委員を推薦する。
委員	異議なし。

4 協議事項

(1) 全体説明

ア これまでの取組み（～令和4年度）

総合政策課	(資料「全体説明資料」の内、「これまでの取組み（～令和4年度）」を説明)
岩塚委員	構想策定時に意見を提出した立場として、非常にワクワクする内容であった。
荒川委員	県の飛騨・世界生活文化センターとの関連性について考えながら拝聴した。
加藤委員（代理）	交通の面について、古い町並から山岳部に放射線状に人が出ていくことから、駅東が中心となるが、今度、駅西地区がどのようになるか、その進捗を見ていきたい。

イ 今後の取組み（令和5年度～）

総合政策課	(資料「全体説明資料」の内、「今後の取組み（令和5年度～）」を説明)
荒川委員	商業地域においては31mを超える建物は建設できないとの認識でよいか。
都市計画課長	そのとおりである。
荒川委員	(複合・多機能施設等の建設のために) 商業地域の拡大を検討するのか。
都市計画課長	何かを建設するために、用途を変更することはない。
大塚委員	やむを得ず1～2m高くなる場合、建築許可として全く不可能なわけではない。ただし、あくまで例外である。
池田委員	市民の移動は車中心であることから、駅西地区における駐車場の検討は重要である。
丸山委員	第2回検討会議の協議内容「整備案」は、どの程度の内容を示す予定か。
総合政策課長	駅西地区に必要な機能、その規模、配置のパターン案を示す予定である。
丸山委員	社会福祉協会への相談等が今後も増加することを見据え、その配置について、現在の市役所、新設の複合・多機能施設、市役所周辺敷地など、幅広く検討していきたい。

(2) 意見交換

大村委員	駅西地区は駐車場整備が肝になってくると認識している。また、中学校の部活動が地域移行することから、学校以外の他の公共施設の需要が高まる可能性がある。
丸山委員	駅西地区の整備は、高山市の姿を方向付ける大きなプロジェクトだと認識している。駅東西のアンダーパスや自由通路について、従前からの利用者が便利になっただけなのか、または新たな人の流れが生まれたのかを検証する必要がある。 また、複合・多機能施設は、現在の各施設の機能をそのまま取り込むのではなく、重複機能を省くことや、市民の利便性を考慮した機能の配置を検討していく必要がある。
岩塚委員	現在の公共サービスは、市役所や総合福祉センターなどに点在しており、移動が負担となっている。複合・多機能施設は、富山市のレガートスクエアのように妊婦から高齢者までが心地よく安心して過ごせる場所にしたい。

大塚委員	交通渋滞は、市民文化会館のイベント開催時に発生している。また、総花的な施設は、例えばホールが大き過ぎて使いづらい、遠方に立地しておりアクセスに時間を要するなどの課題を抱えていることがある。このため、市民文化会館のコンサートホールは、公民館や総合福祉センターと分けて、配置するのも一案ではないか。
池田委員	屋内の子どもの遊び場は、保護者などのニーズが高い。また、加賀市にある体育館規模の屋内の子どもの遊び場は、市民は無料で使用でき、市民以外には有料で開放しており、今後の参考となるのではないか。
荒川委員	限られた敷地において、如何に駐車場を確保するかは重要であり、引き続き注目したい。
黒田委員	南小学校における行事の際、駐車場の確保が課題になっている。今後、様々な施設を整備するにあたり、駐車場の確保は重要である。
加藤委員（代理）	地元高校卒業者は1〜2割しか地元就職せず、今後、更に生産年齢人口が減少することから、観光客へ十分なサービスができなくなることを危惧している。また、若い人の受け皿となる交流人口を如何に取り入れるかにも注目している。このようなことに関連付けた駅西地区の整備が必要である。
井口副座長	まちなかへの車の流入低減のためなど、駐車場の重要性は大きい。また、将来の財政面や利便性を考慮しつつ、駅の東側と西側の両方が生かされるすみ分けが重要である。
河渡座長	人口減少を考慮した持続的なまちづくりが重要である。文化協会は、令和3年の提言書にて和井田様の敷地に複合的な施設を整備し、様々な機能を集約すること提案しており、引き続き、委員の皆さまと議論をしていきたい。
服部先生	委員の皆さまの思いや課題認識を伺い、以下の4つの視点を提供したい。 1. 相互融通や共同利用といった複合化のメリットを高める管理を如何にしていくか。よくありがちなのは、施設は複合化したか、管理が縦割りになることである。 2. 可変性を如何に確保するか。可変性とは、世の中の激しい変化、人口減少、交流人口の拡大などを考慮して、施設を作るときに初めから全てを作り込まず、ある程度の融通の利く空間を作り、もしくは広場や建物がない敷地を残し、仮設的な利用も含めて活動を行い、高度利用が理想的となった段階で施設をつくるというような、まちづくりを育てていくイメージである。 3. まちのデザインをどうするか。民間利用の土地も含めて、分散する施設のデザイン、公共空間のデザインがバラバラにならないようにすることが重要である。 4. 施設に限らず、広場や駐車場を含めた駅西地区エリアの一体的な管理が可能か。エリアマネジメントの主体と各管理者が連携すれば相互使用ができる。例えば、ホール休館日はホワイエも使用できないことがよくあるが、ホワイエを共有空間とすれば、より自由で融通性のある空間づくりができるのではないか。
岩塚委員	参考となる他の自治体の検討手法や成功例はあるか。
服部先生	万能薬のような完璧な手法や事例はない。限られた期間の中で限られた人員が検討していくもの。検討会や施設の建設が終了すると同時に議論を終えるのではなく、運営段階も利用者や管理者が議論を続けることにより、使いながら良いものができるのと考えている。

5 その他

総合政策課	(事務連絡)
-------	--------

6 閉会

総合政策課	(閉会のあいさつ)
-------	-----------